

How to Adjudicate in BP Style?

BP Novice Adjudication Seminar

(Beginner Course)

October 6, 2012

Kohei Arakawa (ICU)

Goal of this lecture

- BP Styleのルールへの理解
- Adjudication in general
- BP StyleのAdjudicationへの理解→どうDiscussionに貢献するか

Rule of BP Novice

- BP Style
- Speech: 7 min.(POI are allowed between 1 to 6 min.)
- 7:10でペンを置いてください
- 7:15を超えてスピーチをした場合は減点の対象となることがあります。(Not Automatic)

What is Important in adjudication?

- Average Reasonable Person
- Non-Biased
- →特定の議論、分析に肩入れしない。
- Do not use specific knowledge
- →自分が持っている専門的知識(とくに学部
の授業で得た知識等)を議論の評価から排
除する

What is Important in adjudication?

- Be Logical

→論理的なジャッジングを！！

→マナーが良かったからといって、一位にはならない

- Be Holistic

→「この議論を出したチームが一位、この反論をしなかったら順位を下げる」ではなく、各議論、各反論のラウンドにおける重要性を説明

- Then, detailed

→各議論がどのサイド、どのスピーカーからどのように説明されたのか。各反論がどのサイド、どのスピーカーから、どの議論、分析になされたのかまでを詳細に伝える

What are the criteria of winning?

- 他のスタイルと共通なもの
- Matter
- Manner
- BP Style「特有」なもの
- Contribution
- Role Fulfillment
- Technicality

What are the criteria of winning?

- Matter
- Argument, Reasoning, Analysis, Example, Rebuttal, POI等ディベートの内容を深めるもの全て
- 例: ポイントだけではなく、アーギュメントを強めるNecessity, Uniqueness, Relevancyを説明することも考慮の対象

What are the criteria of winning?

- Matterに関する注意点
- Closingから出されたReasoning, AnalysisがたとえOpeningから出されたArgumentの内部、延長にあったとしても、Closingがより深く、分かりやすく説明していたのであれば、順位は上に行くことがあります。

What are the criteria of winning?

- 出されたMatterは全てメモを取るなどして、ラウンド後の評価の考慮に入れられるようにしておいてください。

→その議論、分析が新しいものかどうか、良い物かどうかを評価するのはラウンド後に行うようにし、ラウンド中に「これはOpeningが話していたから取らない、あれは良い分析ではないから取らない」といったようなことはしないでください。

What are the criteria of winning?

- Manner

→Wording, Structure, Package等アーギュメントを「いかに分かりやすく、強く提示できたか」を評価するもの

- 例：同じないようであったとしてもClosingがOpeningよりも良いWordingを使って、良いStructure, Packagingをして分かりやすく伝えた場合、順位が上になることもある。

What is the goal of Adjudication in BP?

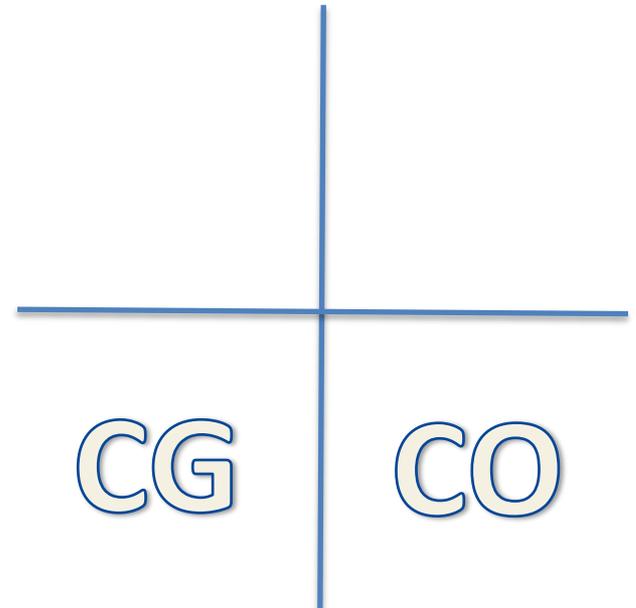
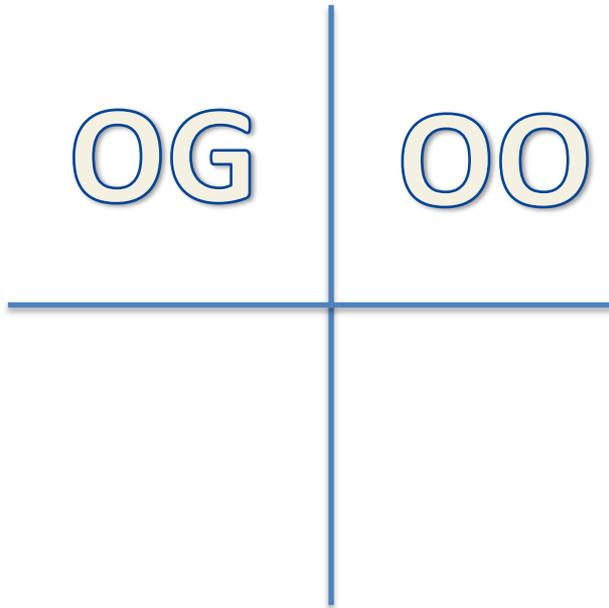
- 「目的」は他のスタイルと何ら変わらない。
- どのチームに、どちらのサイドに「説得」されたのか、を決める。
- →では、BP Styleでは何が異なるのか？

What is the difference with adjudication in other style?

- Decisionを出す「方法」が異なる
- 例 : Consensus vote, Discussion
- ラウンドを評価するに当たっての「方法」が異なる
- 例 : Contribution, Role Fulfillment

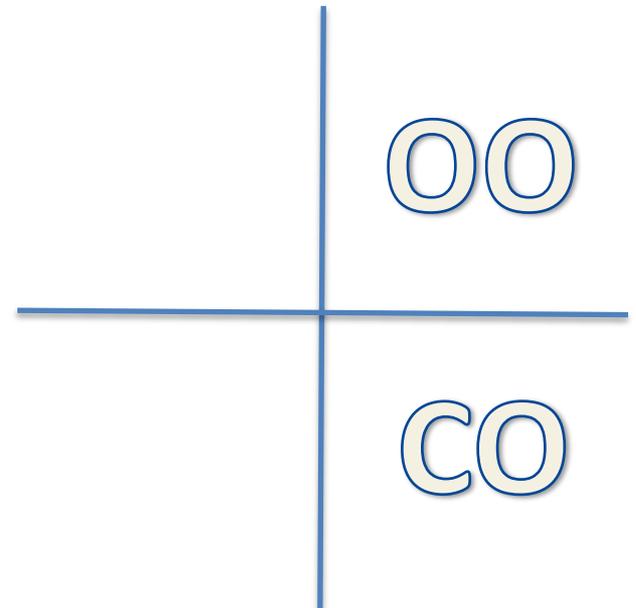
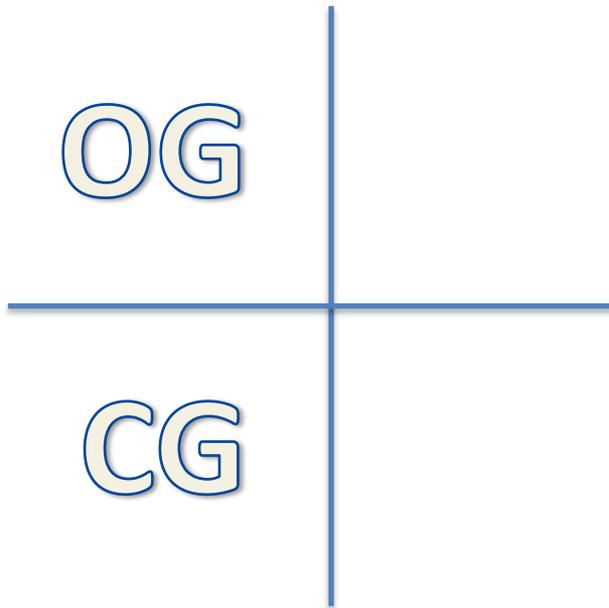
Variation of the ranking

- “Half” win debate



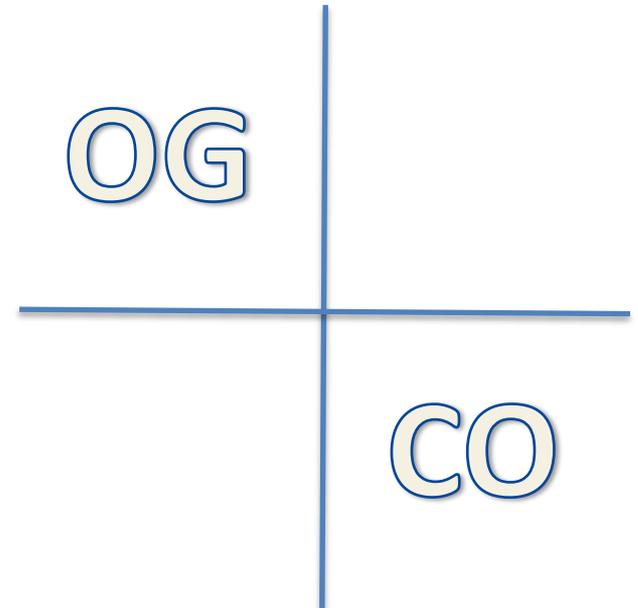
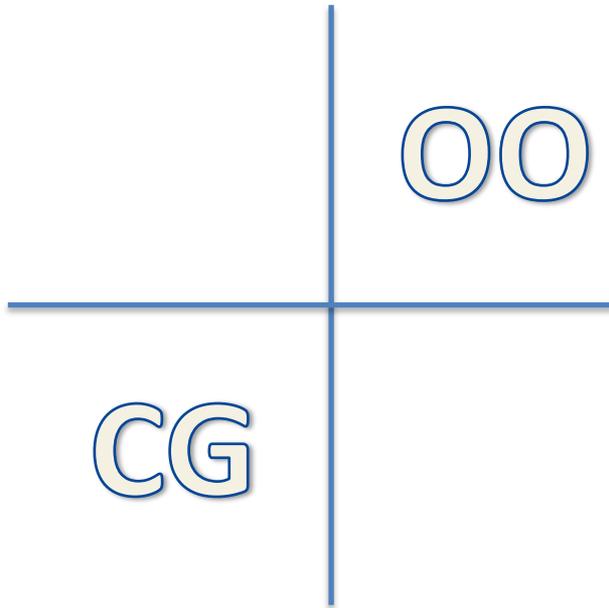
Variation of the ranking

- “Bench” win debate



Variation of the ranking

- “Short” and “Long”



Criteria of ranking

- 何をもって順位を決めるのか？

- 「全部」見て評価する

- ラウンド内のArguments, Refutes, Comparison, POI等全て使って、相対的に評価することは他のスタイルと変わらない

- BPに「特有」によく使われるCriteriaにContributionやRole Fulfillmentがあるが、あくまで道具。これだけでは順位は決まらない。

What is Contribution?

- Argument, Refute, POI等ディベートを深めるために各チームから出されるもの全て。
→だからこそ、ラウンド内で出された全ての内容を包括的に見る必要がある。

What is Role Fulfillment?

- 各スピーカーとしてこなさなければいけない仕事
→十分にこなせなかった場合、Penalizeされることもある
→ただ、気をつけなければいけないのはRole Fulfillmentのみを理由にAutomaticな評価を下してはいけない。(あくまでRole Fulfillmentを考慮に入れるのはIssueでタイになってから。そもそもRole Fulfillmentに問題のあるチームは、説得力に欠けるからそれが理由で順位を下げたことをReason for Decisionで伝え他方がジャッジの評価も上がる上に、ディベーターも納得する。)

Role of Each Speakers

- PM: Define the Motion, Show the Stance of OG, Case Construction
- LO: Rebut to PM, Show the Stance of OO, Case Construction

Role of Each Speakers

- DPM: Rebut to LO, Defend their Case, Case Construction (Elaboration)
- DLO: Rebut to DPM, Defend their Case, Case Construction (Elaboration)

Role of Each Speakers

- MG: Rebut to OO, Show Extension
- MO: Rebut to OG and CG, Show Extension

Role of Each Speakers

- Whip: Summarize the debate holistically, by using the argument, rebuttal, and POI.
- → “New defense to the opponents, New Example, Expected scenario which is delivered by member speakers” are allowed (Manila Worlds Adjudication Manual)

Technicality

- BP Styleは4チームいるので、単純な議論、反論の優劣によって順位を決めることは出来ない
 - 話す順番、エンゲージの機会も考慮に入れる
 - 例：DLOから良い議論、分析が来たからといってそれのみを理由にOOはOGよりも順位は上に出出来ない
 - OGはDLOへ直接反論する機会がないため

Technicality

- Knifing

→Openingとコントラするような議論、反論、分析をClosingがした場合

→あくまで考慮の一つとして(コントラした議論、分析の重要度を下げ、そのチームを評価する理由に使わない等)

Process of deciding the ranking

- 例1：1位と2位、3位と4位を分ける。
- 例2：1位と4位を先に決める。
- 例3：Gov. winかOpp. winか考える。
- →その際に、決めた理由を、Asianと同じようにArgument, Rebuttal, POIを使って説明できるようにしておく。

Workflow of Adjudication in BP Novice

- 0-5min. : 個人で考える
- 5-15min.: 順位の共有、ディスカッション
- 15-20min.: Vote, Scoreの決定
- 20min.-: Oral Feedback

Before discussion

- 順位を共有する際に必ずしも全ての順位が確定的である必要はない。(個人的な順位を決める必要はあり)
- 迷っている場合/クローズで順位を変えてもいい(どちらでもいい)と思っている場合はDiscussionの際に伝える。
- どうしても妥協できない時はVoteする。
あくまで時間内にConsensusが取れなかった場合の最終手段(ChairがMinorityの時はPanelの一人が説明)

How to contribute in discussion?

- まずはReason for Decision
→ Logicalに、Holisticに伝える (What is important in adjudication?)
- 議論、分析、反論のラウンド内における自分の評価を他のジャッジに伝える
→ 自分が評価した議論、分析、反論がなぜ評価できたのかを伝える (Be Holistic, then in detail)

Scoring Guide

- 65-67 Extremely Poor (NA=4/4)
- このスピーカーが2人いたとしたら、この大会において毎回4位をとってもおかしくない。何を言っているのか非常に分かりづらく、Matter, Manner, Role Fulfillment等全ての観点からして大きな問題がある。POIも少なく、ラウンド中の存在感がない。

Scoring Guide

- 68-70 Poor (NA=4/5 or 5/4)
- このスピーカーが2人いたら、毎回3位や4位をうろうろすると思われる。
- Matterがずれているか、余りにもAssertive。Role Fulfillmentとしても直前のスピーカーに反応する意思がなかったり、新しい議論を持ち込んでいない等、明らかに大きな問題点が見受けられる。

Scoring Guide

- 71-73 Below Average (NA = 5/5)
- このスピーカーが2人いたら、3位前後を平均的にとる。ブレイクする可能性はあまり望めない。
- Motion との関連が薄い・Reasoning/Exampleに難があり説得力に欠ける・スピーチが分かりにくい・繰り返している。
- また実質的にRefuteをしていない・ラウンドをまとめていない/Extension を押し切れていない・Set Up/スタンスがわかりづらい等の問題がある。

Scoring Guide

- 74-76 Average (NA= 5/6 or 6/5 ~ 6/6)
- このスピーカーが2人いたら、2位~3位を平均的にとれる。運がよければブレイクもする。
- Motion に関連した主張/反論がある程度 Reasoning や Example 等によって支えられている。ストラクチャー、ボディランゲージ、Word Choice、Role Fulfillment、POI 等も、外しているところもあるが「最低限こなしている」と考えられるレベル。

Scoring Guide

- 77-79 Above Average (NA = 6/7 or 7/6)
- このスピーカーが2人いたら、2位前後をコンスタントにとる。ブレイクの可能性があるスピーチ。
- 多少外しているが、平均的1、2年生と比較して一つ以上長所が見受けられるスピーチ。Ex.)主張が Motion に関連する Reasoning や Example 等によって支えられている・Role Fulfillmentに難はない・反論も鋭い・ Word choiceに優れ、分かりやすい・POIに積極的・フレーミングを効果的に使用etc.

Scoring Guide

- 80-82 Good (NA= 7/7)
- このスピーカーが2人いたら、大抵1位や2位をコンスタントにとれる。ブレイクの可能性が高く、場合によっては QF や SF まで進める。
- 主張は Motion に即し、Reasoning や Example によってしっかりと支えられて反論がしづらい。Role Fulfillment、POI、Structure や Word Choice 等に関してもしっかりとこなしており、短所よりも、長所の方が多く見受けられる。

Scoring Guide

- 83-85; Excellent (NA = 7/8 or 8/8 ~ 8/8)
- このスピーカーが2人いたら、毎回1位をとってもおかしくないレベルで、ブレイクし、SFから決勝まで進出し、優勝する可能性もある。
- SpeakerとしてもTop 10にほぼ確実に入る。ほぼ完璧で、言うことが簡単には見当たらないほど、感動に値する。